

新善光寺 寺報 北縁

2022年5月 Vol. 49

ほくえん



ぎよき えいたいし どうほうよう
御忌・永代祠堂法要のご案内

今年は3年振りにご参列いただけます。

6月19日(日) スケジュール

- 午後1時～ 合葬墓前にて法要
(納骨されている全精霊位様をご回向します)
- 午後1時半～ 講話 (本堂にて)
- 午後2時～ 御忌・永代祠堂法要 (本堂にて)

「御忌」とは簡単にいうと浄土宗を開かれた法然上人の法事のことです。

命日は1月25日で、現在はあたたかくお参りしやすい4月に全国のお寺でおこなわれておりますが、新善光寺では北海道の気候を考えて6月におこなっております。

阿弥陀様を信じて南無阿弥陀仏と唱えれば必ず救済を受けて平和な毎日を送り、浄土に生まれることができるという万民救済の教えを広め残してくれたことに感謝する法要です。

また、併せて永代祠堂法要もおこなっております。本堂須弥壇の上に位牌札をお祀りし、毎日順繰りに回向しております。この法要ではお祀りしている全ての精霊様を一斉に回向・供養いたします。

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため、換気やソーシャルディスタンスの確保など対策を施します。また、ご参列の方にはマスクの着用をお願いします。

新善光寺では随時、永代祠堂を受け付けております。

永代祠堂
一霊位様 二十万円



本堂での法要



合葬墓前での法要

講 話

だいとうじ 住職 おおた かんりゅう
大阪大通寺 太田 寛隆 師



(大阪府天王寺区)

昭和 24 年 9 月 13 日 生まれ

昭和 47 年 浄土宗教師資格取得

昭和 49 年 北海道大学文学部国語国文科卒

平成 18 年 大通寺第 28 世住職叙任

平成 25 年迄 大阪明星学園国語科教諭

今回は新善光寺住職のいここである太田寛隆師が、4年振りに、コテコテの大阪弁で皆様の前でお話をいたします。30分と短い時間ですが、どうぞ聴いていただければと思います。



〈特別展示〉

新善光寺所蔵の法然上人絵伝を、この6月19日に一日限りで展示します。



〈進呈〉法要に参詣いただいた各家様には『浄土宗の手引き』をお渡しします。

「焼香の仕方は？」「法事のときの作法がわからない」——。さまざまな仏事の意味や作法を、簡潔にわかりやすくまとめた一冊になります。

仏教、浄土宗についてより詳しくなれるかと思ひます。



浄土宗の総・大本山について

第2回目：善光寺

前回まで3回に渡り、総本山知恩院の紹介をしました。今回は6つの大本山の内、長野にあります善光寺について紹介したいと思います。

善光寺の本堂はどの宗派にも属していませんが、現在は浄土宗の大本願と天台宗の大勧進、さらに山内寺院（浄土宗14坊・天台宗25院）で管理・運営されており、その中で浄土宗の大本山は「善光寺大本願」となります。



善光寺大本願

善光寺の歴史は大変古く約1400年前にさかのぼり、創建後まもなくご本尊は自ら秘仏になられたと伝えられています。以来、絶対秘仏として、善光寺のご住職たちでさえも、そのお姿を見ることはできません。数え年7年に一度の御開帳では前立本尊さま（絶対秘仏のご分身とされている）がお姿を現してくださいます。一つの光背に阿弥陀如来さまと観音・勢至のお三方がおられるため一光三尊仏とお呼びしています。



回向柱と本堂（白い糸が“善の綱”）

御開帳の際は本堂前に回向柱が立てられ、前立本尊さまと柱は“善の綱”と呼ばれる糸で結ばれ、阿弥陀如来さまに触れるのと同じご利益があるとされています。（表紙参照）

我が国の来し方・行く末をご覧くださいる善光寺如来さまに、我々は昔から魅了され、いつもお参りの人々が絶えないお寺、それが善光寺なのです。

御開帳道中記

私、立花俊輔は両親と共に風薫る5月、信州善光寺の^{まえだち}前立本尊さまの^{ごかいちよう}御開帳にお参りしてきました。およそ1400年の歴史がある長野の善光寺さんは、いつもお参りの人々で絶えることがありません。数え年7年に一度の御開帳ともなると、あまたの人々で境内がとても賑わいます。世間は、戦いや争い・疫病や災害など不安と悲しみに満ち、揺れ動いていますが、如来さまのやさしい光は、常に変わることなく私たち生きとし生けるものを、照らし続けてくださっていることを、この御開帳にお参りして、さらに深く感じさせていただきました。



前の堂童子を勤められた向仏坊さん

さて、御開帳はこのように盛大に催されますが、善光寺では毎年12月の第二^{さる}申の日に、とても静かな祈りの行事である御越年式^{ごえつねんしき}が行われます。この御越年式は、如来さまの年越しであるとされ、「当夜、境内の明かりは自動販売機も消され、門前元善町では区長からも午後8時以降の消灯を、回覧板を通じて各家庭に伝えられます」と善光寺鏡善坊^{わかおみ}の若麻績修英師は、説明くださっています。まさに、静寂の中、しかも、一般に公開することなく秘儀として御越年式は勤められます。御越年式を司るお役を堂童子^{どうどうじ}といい、善光寺^{さんない}山内の浄土宗寺院14坊の御住職が交代でお勤めくださいます。堂童子を勤められるお寺には、年末年始にかけて注連縄^{しめなわ}がかけられます。また、民俗学者の五来重氏は、『善光寺まいり』で御越年式について、こう述べています。「この夜は日本中の精霊^{しょうれい}や祖霊のあつまる霊場としての善光寺信仰が如実に見られる。したがって善光寺境内には、目には見えないけれども、木の根元^{くさむら}や叢、石塔、燈籠の陰などに精霊がひそんでいて、三界万靈の充満した世界が現出されているのである」。



御開帳時の善光寺山門

賑やかな御開帳と静かな御越年式、この

どちらも人々の生き生きとした祈りと信心が伝わってきます。善光寺如来さまが生身の如来さまである所以だと拝します。善光寺には、脈々と受け継がれた信心の朗らかな香りが漂っているのを感じつつ、信濃路をあとにしたのでした。

もうすぐお盆のおまいりです

職員を紹介します—総集編

あと少しすれば8月のお盆参りの時期がやってきますね。

新善光寺では8月1日～15日まで、皆様のご自宅へとお参りに伺わせていただいております。

以前、順々に職員の紹介をお手伝いに来られるお坊さんに至るまで行ないましたが、なかなか顔と名前が一致しないというのが現状ではないでしょうか。せっかくですので今一度、全お坊さんを紹介していきたいと思えます。各個人の詳しいプロフィールなどはバックナンバーにてご確認くださいと思います。バックナンバーは、ホームページ上からもご覧いただけます。



住職

おおた しんきん
太田 真琴
(昭和24年生まれ)



副住職

おおた しんかい
太田 真海
(昭和59年生まれ)
お参り地域：全般



おおた こうけん
太田 光顯
(昭和56年生まれ)
お参り地域：
手稲・西区ほか



まつお いっし
松尾 一志
(昭和10年生まれ)
広島出身
お参り地域：
南・中央区ほか



そうかわ しんしょう
宗川 信章
(昭和39年生まれ)
寿都出身
お参り地域：
北広島・清田・豊平区ほか



ほりうち かずき
堀内 和紀
(昭和47年生まれ)
札幌出身
豊平・善道寺住職
お参り地域：豊平区ほか



たちばな しゅんぶ
立花 俊輔
(昭和55年生まれ)
美幌出身
お参り地域：西・東区ほか

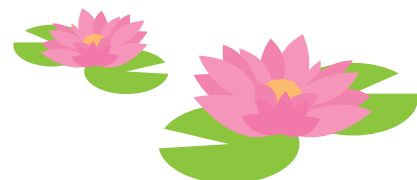


さこ こうしょう
佐古 康祥
(昭和61年生まれ)
岐阜県出身
お参り地域：北・東区



こまき ね きんしょう
駒木根 琴生
(昭和16年生まれ)
士別出身
内勤担当

※記載のお参り地域はお盆の時だけに限定されます。



以下の方はこのお盆期間だけお手伝いいただく方です。



いしやま ゆうどう
石山 祐道
(昭和 43 年生まれ)
長万部出身
お参り地域：中央区
長年新善光寺に勤めていた
だいており、現在は長万部
の善導寺様におります。



のざき こうし
野崎 幸史
(昭和 25 年生まれ)
標茶出身
お参り地域：
石狩・江別・厚別区ほか



たかせ ゆうしん
高瀬 勇信
(昭和 52 年生まれ)
東京別院・霊源寺所属
お参り地域：北・中央区



さ さ き しゆくこう
佐々木 淑公
(昭和 36 年生まれ)
神奈川・専念寺副住職
内勤担当

ニューフェイス



さとう ゆうと
佐藤 宥斗
(平成 10 年 1 月 17 日生まれ) 大阪・長安寺副住職
お参り地域：白石区ほか

[本人より]

佛教大学在学中に浄土宗教師資格を取得しました。大阪の自坊は大阪城の城下にある寺町で、街と緑が融合する素敵な街です。クリケットというスポーツを高校生から始めて、現在も協会職員として携わっています。

現在、大阪の自坊で僧侶の勉強をしながら、栃木でクリケットという日本ではあまり馴染みのないスポーツの普及活動をしております。

現在この二拠点ですが、休みの日には旅に出るのも好きでご当地の珍しい食べ物を食べるのが楽しみです。皆様、どうぞよろしくお願ひします。

皆様への各ご自宅へのお参り日程は7月中旬頃にハガキにてお知らせいたします。
このほかにも月命日・祥月命日など随時お参りは受け付けております。どうぞ、お気軽にお申し付けください。

仏さまのおはなし ③

北海道の短い春も終わり、過ごしやすい季節になってきました。本原稿を書いている時は、欧州ウクライナでの戦争がまだ終わりの見えない情勢です。一宗教者として、この事態は大変遺憾に感じますし、一日も早く戦争が終わることを祈ると共に犠牲者への哀悼の意を表すところです。

今回も「お釈迦さま」のご生涯の続きについて、お話ししていきたいと思います。



しゃかによらい 釈迦如来 ③

前回までは、多感な青年、悉達多（お釈迦さま）が、世の無常を見ることによって、その苦しみから逃れる術を求めため出家し、修行の道に進むところまでお話ししました。

今回は、その「苦」からの解脱のための苦行、そして悟りを開かれるところまでのお話をしたいと思います。

「苦行、そして悟り。」

人間が生きていくことは、結局何かを求めているに他ならない。老い、病、死。これを超越し、苦悩から離れた境地に至るため、悉達多王子は29歳の時に俗世界とのつながりを断ち、出家の身となりました。

この時、悪魔が早くも悉達多につきまとい「お城に帰り、時を待てばこの世のすべてがお前のものになるのだ」と心をゆさぶりましたが、その悪魔を追い払い、髪をそり、托鉢をしながら修行へと向かうのでした。

悉達多は、アーラーダ・カーラーマとウドラカ・ラーマプトラという師のもとで瞑想修行に励みます。しかしながら、それは結局求めるさとの道ではないことを知った悉達多は、尼連禪河という川のほとり、ウルヴィルヴァーの林中にて厳しい苦行を行います。

その苦行は、お釈迦さまが後に「現在、過去、未来のどんな修行者や出家者も、これ以上の苦行をしたものはなく、またこれからもないであろう。」と言われたほどの苦行でした。この苦行を六年の長きにわたり行った悉達多でしたが、求めるものはそこにはありませんでした。

そこで苦行を放棄し、川で沐浴して身の汚れを洗い流します。苦行により衰弱

し、今にも力尽きそうだった悉達多でしたが、通りかかった村娘のスジャーターから乳粥の施しを受け、体の調子を回復します。この時、悉達多と共に苦行をしていた五人の出家者たちは、悉達多が墮落したと考え、見捨てて他の地方へ去っていきました。

今やただ一人となった悉達多は静かに菩提樹の下に座って命を懸けて最後の瞑想に入りました。乱れる心、騒ぎたつ想い、黒い心の影。それは悪魔の襲来と言うべき苦闘でした。しかし、その戦いも終わり、夜明けを迎え、空に明星を仰いだ時、心は光輝き悟りは開かれ、仏陀（真理を悟ったひと）となりました。悉達多、35歳の年の12月8日でした。

「初転法輪」

悟りを開いた悉達多は、これより「仏陀」「無上覚者」「如来」「釈迦牟尼」「世尊」などの種々の名で知られるようになっていきます。

仏陀となったお釈迦さまは当初、自身が悟った真理を説いても、欲望に支配された人々は理解できないと絶望します。そして、説法は無駄だと考え、そのまま悟りの世界に安住してしまおうと考えました。しかしその時、梵天が現れ「自ら得た悟りをほかの人に対して説かないのは、人類にとってよろしくないことだ。あなたの悟った世の真理を、人々に説いてくれ。」とお釈迦さまに勧請（仏に法を説くことをお願いすること）しました。この時、お釈迦さまは「甘露の門は開かれたり 耳ある者は聞け」とおっしゃったとされています。甘露とは「不死」を示すとされます。しかし、人が不死になることはありません。このお釈迦さまの言葉は、仏法により、死への恐れや不安を超越するというを示されているのかもしれない。

梵天に勧請されたお釈迦さまは、自ら悟った法（仏教の教え）を人々に説くことを決心します。初めに六年にわたる苦行を共に修行していた五人の出家者に法を説くため、彼らの住む鹿野苑へ赴き、彼らを教化しました。彼らははじめ、苦行を捨てたお釈迦さまが遠くから来るのを見て軽蔑し避けようとしたが、その教えを聞き最初の弟子となりました。この初めての説法のこと、初めて法の車輪が回ったということで「初転法輪」と呼ばれることとなりました。

悟りを開かれたお釈迦さま。その悟りとは一体どんなものだったのでしょうか。
(次号へつづく)。

岡本かの子氏のお墓にお参りして

ある晩夏の日、東京都多磨霊園にある岡本かの子氏のお墓にお参りしたことがあります。岡本かの子氏は、仏教にも造詣が深く、昭和10年5月の『浄土』の誌上に「法然上人への思慕」と題して寄稿しています。そのかの子氏のお墓の片隅に、文章の刻まれた石碑がありました。木漏れ日に照らされたその言の葉は、深く考えさせられる一文でした。

家族というもの、夫婦親子という結びつきの生きようについて考える時、私はいつも必ず岡本一家を一つの手本として、一方に置く。この三人は日本人の家族としてはまことに珍しく、お互を高く生かし合いながら、お互が高く生きた。深く豊かに愛し敬い合って三人がそれぞれ成長した。古い家族制度がこわれ、人々が家での生きように惑っている今日、岡本一家の記録は殊に尊い。

川端康成氏の言葉です。まだ暑さの残る地藏盆の頃、岡本かの子氏の墓前で、衝撃と感動と思惟の念が、私の中を駆けめぐりました。

岡本かの子氏の長男は、大阪万博で「太陽の塔」を造った芸術家の岡本太郎氏です。夫は、漫画家の岡本一平氏。そして、この家には、夫公認のかの子氏の敬慕者であり愛人でもある男性が、一つ屋根の下で暮らしているのです。世間一般からすると、“とんでもない”“理解に苦しむ”一家であるでしょう。しかし、家族のことは、その家族にしかわからないし、他者が理解しようがしまいが、その家族はその家族として正真正銘の家族なのです。人の生き方は、それぞれです。また、家族のあり方も千差万別です。この川端康成氏の提言は、生きるということが答えのない問いであることを、教えてくれているように思います。

「生きように惑」いながらも、お念仏の道をひとすじに歩んでいこうと感じたお墓参りでした。

〈文：立花 俊輔〉



岡本かの子氏・一平氏の墓碑



岡本太郎氏の墓碑

ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話③〇



〈喜怒哀楽の月日の流れの中で…〉

こまきね きんしょう
駒木根 琴生

我が家の庭にタンポポが咲いた。例年にない大雪の所為か法然上人の「さへられぬ光もあるをおしなべて隔て顔なる朝霞かな」の春の歌がいつも以上に心に響いた。意味は「春の光が万物を育てるが如く、阿弥陀仏のみ心が私達を等しく守り続けている」という有難い歌である。他力本願の称名念仏への感謝が溢れた。

次に随筆家・幸田文さんの門出の歌。「入学願書を出すのが梅、試験が沈丁花で、卒業式は辛夷で入学が桜」と、花に喩えて表現している。我が家の孫も桜舞う中、高校を卒業し、希望の大学に入り、ほっとした。実は大学入学共通テストを終えた後、実母の職場でクラスターが発生し、4人家族は濃厚接触者となり、日常が一変した。

コロナ禍の自粛生活も3年目だ。収束が見えず、なかなか元通りに戻れない。84歳の夫と82歳の私は元気な高齢者で、口喧嘩をしながら六十数年続いている。正に、縁は異なるものである。この間「喜怒哀楽」に繰り返し立ち向かってきた。

改めて、この場を借りて、振り返ってみたい。中国の『中庸』出典の喜怒哀楽は字の通り喜び・怒り・悲しみ・楽しみの四つの感情である。最初の「喜」は前述の孫の吉報に勝る喜びはない。次の「怒」は腹を立てて、すぐに怒り出す事。この世はお釈迦様の八苦の一つの怨憎会苦。好きな気の合う人ばかりでなく不快な人とも付き合わなければならない故に厄介である。次の「哀」は愛別離苦・愛する人と別れなければならない悲しみである。中でも子供の別れほど大きく深い悲しみはないでしょう。44年前、長男は13年という短い歳月に自ら終止符を打った。残された母はお念仏に導かれて出家した。同じ思いの人達に役立ちたいと布教の道を選んだ。

加齢に伴い、仏事の参列が増えた。昨年末には主人の実弟、従兄弟を見送った。明けて4月、2日には親友Kさんの次男の訃報に接した。すでに長男を亡くした彼女に掛ける言葉がない。3日、私の従姉妹の急死だ。温泉の入浴死だった。4日には義兄の逝去だ。残された姉が心配で日参している。最後には「楽」だ。4月25日と26日



チカホでのリース展

の2日間、地下街で開催した野の葉のリース展を挙げたい。(写真参照) この道はすでに50年近くになる。久々の展示会に向けて、どんな御宅に飾られるのかを考えながらの創作は楽しかった。当日は懐かしい人々の再会も加わり、勿体ない程充実した時間だった。家族の協力も有難かった。

老後の歳月はそれ程長くはないだろう。穏やかで笑いながら生きてゆきたい。

春風に 扉開ければ 南無阿弥陀仏

団体参拝旅行開催のお知らせ ～ 2023年、東京・増上寺へ～

2年前に京都・知恩院への団体参拝旅行を計画しておりましたが、新型コロナの影響で残念ながら中止を余儀なくされました。

今回、来年4月5日に東京にある浄土宗大本山の増上寺の御忌大会という大きな行事で、平岸・長専寺様のご住職が名誉ある唱導師をつとめることになりました。

このまたとない機会に増上寺への団体参拝を計画しました。増上寺のほかに徳川家ゆかりの日光東照宮や、東京の寺院への参拝も予定しております。



(予定) 2023年4月5日～4月7日 【2泊3日】

東京のこの時期はおそらく桜が満開なはずです。この貴重な法要に、ぜひとも一緒にお参りしていただければと思います。随時、旅行の情報はお知らせしていきます。

前回の団体参拝旅行は2015年の長野善光寺御開帳の時で、増上寺へは2003年に行っております。



増上寺御忌大会のお練り行列

長野善光寺への参拝の様子



増上寺団体参拝集合写真 (2003年4月)

〈本堂でいつでも写経ができます〉

5月より本堂で随時写経をできるようにしました。本堂での法要や行事以外の時は、どなたでもおこなえます。イスに座ってでも結構ですし、座布団に座りながらでもできます。

どうぞ、納骨堂のお参りの時や、お近くにお寄りの際は是非ためしてみてください。朝9時から夕方5時まで可能で、冥加料は500円です。写経された方にはささやかながら絵葉書をお渡しします。



〈仏教講座について〉

毎月おこなっている仏教講座では、コロナ禍の中で今までは写経をメインにおこなっておりましたが、7月は久々に写仏を計画しております。

今後は、以前おこないました御朱印帳作りや念珠作り、切り絵なども実施していきたいと考えております。次回6月は写経をおこないます。

予約や道具は不要で、冥加料は500円です。どうぞお気軽にご参加ください。

〈写経の流れ〉 写経→納経のおつとめ→解説&お菓子タイム (所要時間2時間弱)

6月25日(土) 14時から「写経」 7月23日(土) 14時から「写仏」

以後、毎月第4土曜日の14時より開催



清璋寺から

清璋寺のホームページが新しくなりました！

～清璋寺 HP 3つの特徴～

- ・清璋寺のお寺の様子が見やすくなりました。
- ・納骨堂は現在の空き状況を反映しています。
- ・祈願の予約・申し込みがHPからできるようになりました。

新善光寺のお檀家様も清璋寺をご利用いただけますので、法事等のご要望ございましたら清璋寺までご連絡ください。

HP アドレス：<https://seishouji.jp/>



清璋寺 札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目19-35 TEL 011-668-5110

しろいし幼稚園から

すくすく育つ“ほとけ”の子

しろいし幼稚園の園児たちが元気に参拝に来ました。

本堂で“お花”と“灯り”をささげ、幼稚園の理事長でもある住職の話を知りました。その後、本堂や納骨堂や合葬墓のほとけさまにお参りしていかれました。

しろいし幼稚園では「ほとけさまの教え」を通じて、子どもたちが「いのちの大切さ」を知り、ありがとう・ごめんなさいが自然と言える素直で優しい「ほとけさまの子ども」を育てています。



学校法人新善光寺学園 **しろいし幼稚園**

〒003-0028 札幌市白石区平和通1丁目南6番16号 URL siroisi-pippara.ed.jp
TEL 011-861-4426 FAX 011-866-0707 E-mail siroisi-pippara@cyber.ocn.ne.jp

慈啓会から

「札幌市稲寿園」のご紹介

札幌市稲寿園は、手稲区にある100名定員の特別養護老人ホームで、原則として65歳以上で要介護3以上の介護認定を受けられている方にご入居いただいております。

約100年にわたり高齢者福祉における役割を担ってきた当法人（社会福祉法人 札幌慈啓会）が昭和47年より札幌市からの委託を受け管理運営を行っている施設です。

最近では、ユニット型といわれる全室個室の特別養護老人ホームが多くなっておりませんが、当施設は「従来型」と呼ばれ、2人部屋42室を中心とした構造（他に個室：10室、4人部屋：4室）となっております。

全室個室に比べると、当然プライバシーへの配慮がより必要となる環境ではありますが、当施設では法人理念である「共生^{ともいき}」の精神に基づき入居者様の尊厳保持に配慮するとともに、経験豊富な介護職員の配置により質の高いケアの提供に努めております。

また、看護師による24時間の連絡体制を構築するとともに、定期的に慈啓会病院からの内科・精神科医師の訪問診療を受けることで、医療面での安心も確保しております。

さらに、ユニット型よりも低廉であることも魅力のひとつです。また、特別養護老人ホームだけではなく、デイサービス（通所介護）やショートステイ（短期入所）、ヘルパーステーション（訪問介護）、居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）といった在宅部門も併設し、地域でお住いの高齢者の方々のご支援も行っております。

手稲区は、全国平均と比べても入所型の施設が多い地区ではありますが、今後、さらに高齢者人口並びに認知症高齢者の増加などが予測されており、当施設でも「和顔愛語^{わげんあいご}で利用者様それぞれの当たり前の生活に寄り添うケア」を目指し、地域の皆様に安心して選んでいただけるようより一層取り組んでまいります。

介護や施設などについて、ご心配なことがございましたらお気軽にご連絡くださいますようお願い申し上げます。



デイサービスの光景



面談の様子



機能訓練の様子

【ご連絡先】社会福祉法人札幌慈啓会 特別養護老人ホーム札幌市稲寿園

〒006-0835 札幌市手稲区曙5条2丁目2-21 TEL 011-682-2160

札幌慈啓会総合相談室のご案内 ☎ 0120-83-8291

専門スタッフが保健・医療・福祉などのご相談に応じます。

お電話受付時間／8:45～17:00(土日・祝は除く)
E-mail info-jk@sapporojikeikai.or.jp

相談無料

—お檀家タウンページ～ともいき訪問②③—

横山製粉株式会社

一歩、一穂、北の大地から。

今回は私たちの食生活に欠かすことのできない小麦粉を作られている、札幌市白石区に本社がある横山製粉様に伺いました。

横山家様は代々、新善光寺の総代をつとめていただき、寺の発展に大変お力添えをいただいております。また関連法人である社会福祉法人札幌慈啓会やしろいし幼稚園の役員もお願いしております。現在は前社長の横山昭様に総代をお願いしており、横山家様のご親族も各々納骨壇がありますので、お彼岸やお盆の時期は早く来られ掃除とお飾りをせさせとされています。



新善光寺本堂上棟式で挨拶されている創業者の横山保様（昭和38年頃）

安心安全な食糧の安定供給を白石の地から

今回は専務取締役の井馬卓様と管理部部長の工藤忍様にお話をお聴きしました。

現社長は横山敏章様で、創業は祖父の横山保様が戦後間もない昭和21（1946）年に小樽で横山産業株式会社として設立。昭和31年に本社を白石区に移転され、そば粉工場、小麦粉工場を建設されました。

井馬専務は「小麦粉・そば粉・ホットケーキミックス粉や天ぷら粉などのプレミックス粉の加工が主で、小麦粉は年間約3万トンを加工しています。食糧報国が一貫した企業理念で、今の時代には古く聞こえるかもしれませんが、安心安全な食糧の安定供給が第一です。」とお話くださいました。

また、「この白石区に育てていただいている」ということから社会貢献・地域貢献にも力を入れられており、小学校の通学の見守り、町内会活動や公園のお祭りでの出店などもされており、さらに敷地内に地域の方向けにお休みどころも設置されています。



今後についてお聞きすると「古代小麦の“プレスト小麦”や“ひえ”や“あわ”などの加工も進めています。現在、食を通して健康や美容というのにも注目されていますので、私自身もわくわくしています」と工藤部長がお話してくださいました。



コロナ禍はどうでしたか、という質問にも「私たちよりも製品を使っていたらいるお客様の方が大変だったのではないのでしょうか。」と自分たちよりお客様が何より大事ということで、この考えは理念からくるものではないかと思ったところです。

北海道産原料 100%の自社製品「Rera Pirka(レラピリカ)」

「お客様のニーズに真摯にお応えし、粉の配合もそれぞれ変えています。粉の種類は何百種類にもなります。私たちは北海道産にこだわり、北海道産 100%を目指しています。」との力強い言葉も頂戴しました。



横山製粉様の製品は、一般向けには「北海道ホットケーキミックス」と「北のパスタ」が、こだわりのスーパー「フーズバラエティすぎはら」さん（札幌市中央区宮の森1条9丁目3-13）で購入することができ、ネットでも注文ができるそうです。ホットケーキはふんわりと、パスタはもちもち感がたまりません。また、北海道を代表するお菓子「白い恋人」にも小麦粉が使われているとのことでした。



私たちの日々の生活には小麦粉が欠かせません。その小麦粉がどのように作られ、その作り手の思いを知るのも重要だと感じた取材になりました。

一步、一穂、北の大地から。
横山製粉株式会社

〒003-0028 札幌市白石区平和通5丁目南2番1号
TEL 011-864-2222 FAX 011-864-2220

横山製粉

検索

当山のお仏像を紹介します⑥

こうもくてん
広目天

本堂須弥壇しゅみだんのむかって右奥の角におまつりしているお像が、今回紹介する広目天です。広目天は、四天王のうちの一尊で、西の方角を守護するとされています。手には、巻物と筆をもっておられます。広目天は、何を記録なさっているのでしょうか。もしかすると、仏の道歩む者の名前を記して、その者をお護りくださっているのかもしれない。



札幌の浄土宗寺院紹介①

観音寺

アンケートはがきにリクエストがありまして、今号から札幌の浄土宗寺院を紹介していきますので、ご参考にしてお参りいただければと思います。まずは社会福祉法人札幌慈啓会や旭丘高校のすぐ近くにあります観音寺様です。

新善光寺を開いた大谷玄超上人は、住民から霊峰として畏敬された藻岩山に西国三十三観音像の安置を思い立ち、明治18年に檀信徒の協力によって現在の登山口から頂上



三面地藏



以前、新善光寺婦人会でお参りに行きました

に至る山道を開設しました。その後、山麓に観音堂、山頂に一坪の石堂を建立し、昭和42年に現在の本堂が完成されました。石堂が山頂にある藻岩観音奥之院の始まりです。

巨大な三面地藏菩薩像や四季折々の花々が見どころです。

観音寺 札幌市中央区旭ヶ丘5丁目6-42

観音寺

検索

北縁 なんでも Q & A

いつもご質問、感想等、ご投稿いただきありがとうございます。

コロナ禍も3年目に入りましたが、未だ終息に至らず、いよいよ「with コロナ」という言葉も現実味を帯びた情勢になりつつあります。今回はコロナ禍特有と言えるご質問をいただきましたので、その事についてお答えしていこうと思います。

また、引き続き皆さんのご質問を募集しています。本報への感想やご投稿なども引き続きお願いします。

Q コロナ禍における葬儀の対応を詳しく知りたいです。

A ご質問では「葬儀の対応」という記載でしたが、コロナ禍になってから変化していった葬儀事情についてお答えしていきたいと思います。

まず、法的なものとしては、コロナで亡くなった場合、ご遺体が儀式を行う前に荼毘にふされる事になります。これはコロナが指定感染症2類相当ということ。火葬後に葬儀を行う時は、遺骨をお奉りし勤めることとなります。この場合、通夜式から表葬式（一般的には「告別式」）という形で執り行う家があれば、表葬式のみ行う家もあります。また、病院より火葬場へ直接搬送されるので枕経は行わないことがほとんどです。

次に葬儀会場における対応ですが、マスクの着用などの感染対策の徹底はもとより、儀式中に会葬する人の数をなるべく減らし、密にならないような対応を行うことがスタンダード化されています。また、「式前焼香」と称し、式の2時間ほど前から開場し、会葬者が事前に焼香できるような対応も取られています。

家族葬のような親族のみでの葬儀に関しては、重症化する恐れのあるご親戚には会葬を遠慮してもらうなどの対応をする家もあります。

僧侶の対応については、読経中の飛沫を避けるため、マスク着用のもとにお勤めをする僧侶が多いようです。

Q 一日葬に対応していただけますか。

A 一日葬は、上記のコロナ対策の一環として、葬儀に会葬する機会、時間を減らすという観点で行われていることもあります。葬儀社が費用を抑えるプランとして提案したことで行われている側面もあります。この場合、表葬式（一般的には「告別式」）を一座勤め、お別れの儀式として執り行うケースが多いようです。この時省される通夜式は、文字通り「夜を通し亡き人偲ぶ」という意味があります。ですから、ただ経費節約のために省略をするということは宗教的観点からおすすめはできません。今この時代、様々なことを柔軟に考えますので、新善光寺では一日葬に対応いたしますが、葬儀本来の意義を考慮しつつご検討いただければと思います。

〈訃報〉

明照婦人会顧問の大室スミ様が令和4年1月30日に行年108歳で往生されました。

長年に渡り新善光寺の発展にご尽力くださり、団体参拝旅行など多くの行事にも率先してご参加くださいました。また、札幌市仏教連合会にも非常に力添えをいただいております。

長年のご功績に改めて感謝申し上げるとともに、お念仏者の先達としてお十念をおとなえたいと思います。南無阿弥陀仏



東京別院 霊源寺から

新善光寺の東京別院である霊源寺では関東近郊在住の新善光寺のお檀家様のご供養も受け付けております。埼玉県や千葉県にもお参りに伺いますので、もしご希望の方がおられればお気軽にご相談ください。また納骨堂のお申し込みも随時受け付けております。



大光山 霊源寺

受付時間 9:00~19:00
毎日見学受付中

東急目黒線・不動前駅 徒歩7分(桐ヶ谷斎場真向かい)
〒142-0063 東京都品川区荏原 1-1-2 FAX:03-3494-6319
TEL:03-3494-1083

大光山霊源寺 検索

編集後記

2、3ページで紹介した御忌・永代祠堂法要ですが、3年振りに皆様と共におこなえることとなりました。制約も多い中ではありますが、本堂で一緒にお念仏をとこなえられるということに有難さを感じます。コロナ禍で見えてきた法要の在り方というところもありますので、戻していくところは戻して、変えるところは随時変えていこうと思います。

どうぞ今後ともよろしく願いいたします。次号は10月発行の予定です。アンケートはがきもお待ちしております!! (真海)

※新善光寺の日々の情報は各種 SNS にて公開しております。
どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。

新善光寺 検索



ホームページ YouTube

Hokuen 49

新善光寺寺報

北縁

発行 / 2022年5月発行
発行責任者 / 新善光寺住職 太田真琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706
[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp